

第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 「オリジナルの行方—文化財アーカイブ構築のために」(④美07-08-1/1)

第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は「“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために」をテーマに、企画情報部の担当で開催した。近年の複製技術やデジタル技術の目覚ましい革新など、アーカイブを取り巻く環境は激変している。そこで文化財とは何かという原点に立ち返りつつ、“オリジナル”という概念を軸として、文化財アーカイブはどうあるべきかという問題意識の共有化を図る国際研究集会を企画した。またこの研究集会の関連企画として、2008年10月9日から12月25日まで東京国立博物館黒田記念館にて「湖畔VS湖畔」と題し、現代美術家の福田美蘭氏による《湖畔》を黒田清輝の《湖畔》と対峙させて展示を行った。

日時：2008（平成20）年12月6～8日、会場：東京国立博物館平成館大講堂
参加者数：のべ281名

基調講演：塩谷純「モノより思い出、思い出よりモノ」

セッション1：モノ／“オリジナル”と対峙する

何傳馨（国立故宮博物院）「二点の中国古書蹟における光学調査」
マシュー・P・マッケルウェイ（コロンビア大学）

「室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”—宋画との関連—」

浅野秀剛（大和文華館）「肉筆浮世絵と浮世絵版画—浮世絵研究者にとってのオリジナル—」

岡塚章子（江戸東京博物館）「写真—オリジナルという認識の共有」

松本透（東京国立近代美術館）「現代美術とオリジナル」

セッション討議 司会：相澤正彦（成城大学）・山梨絵美子

セッション2：モノの彼方の“オリジナル”

タイモン・スクリーチ（ロンドン大学SOAS）

「「おじいさんの斧」：日本文化史におけるオーセンティシティと再生—宇治橋を例に—」

津田徹英「『諸説不同記』と「現図」胎蔵曼荼羅」

シェリー・ファウラー（カンザス大学）「燈明寺（東明寺）「六」観音像をさぐる」

飯島満「古典芸能の伝承と変遷—人形浄瑠璃文楽の場合—」

綿田稔「雪舟というオリジナルな存在—作家論の功罪—」

皿井舞「仏像の修理・修復—サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐる—」

清水重敦（奈良文化財研究所）「更新のオーセンティシティ—木造建築におけるオリジナル—」

セッション討議 司会：勝木言一郎・森下正昭

基調講演：加藤哲弘（関西学院大学）「オリジナルとその保存—文化財アーカイブの可能性と限界—」

セッション3：“オリジナル”を伝えること

鼎談：赤尾栄慶（京都国立博物館）・マーク・バーナード（大英図書館）・中野照男

「敦煌文書とアーカイブ」

山梨絵美子「サー・ロバート・ウィット・ライブラリーと矢代幸雄の美術研究所構想」

江村知子「遊興文化の残映—彦根屏風の光学調査と情報化—」

田中修二（大分大学）「屋外彫刻調査保存研究会の活動について」

総合討議 司会：佐野みどり（学習院大学）・田中淳

なお本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団および財団法人東芝国際交流財団より助成を受けた。